

大地をいやす

平和の使徒となろう

— ラウダート・シを生きる現場から —



Photo : アッシジからの太陽 © JUN NAKAI

「すべてのいのちを守るための月間 2026」シンポジウム
2026 MONTH FOR PROTECTING ALL LIFE
2026.10.3(sat)

主催：日本カトリック司教協議会 ラウダート・シ部門
共催：カトリック広島司教区 平和の使徒推進本部 ラウダート・シ デスク



「ハチドリの伝説」

ある日、大きな山火事が起こった。動物たちは皆、恐怖と落胆に襲われて、この大惨事を手をこまねいて見守るばかりだった。小さなハチドリだけが、そのくちばしに数滴の水を溜めて火の上に投げ入れるために、忙しく立ち働いていた。しばらくして、この馬鹿げた振る舞いに苛立ったアルマジロがハチドリに言った。「ハチドリさん、あんた正気を失ったのかい。そんな数滴の水でこの火を消せるわけがないじゃないか。」するとハチドリは答えた。「分かっているさ。でも、僕は自分にできることをしているんだよ。」

(南米 アンデス地方の伝説)

CANTICO DI FRATE SOLE

Altissimo, onnipotente, bon Signore,
Tue so' le laude, la gloria e l'honore et onne benedizione.
Ad Te solo, Altissimo, se konfane,
e nullu homo ène dignu Te mentovare.

Laudato sie, mi' Signore, cum tutte le Tue creature,
spezialmente messor lo frate Sole,
lo qual è iorno et allumini noi per lui.
Et ellu è bellu e radiante cum grande splendore:
de Te, Altissimo, porta significazione.

Laudato si', mi' Signore, per sora Luna e le stelle:
in celu l'ài formate clarite e preziose e belle.

Laudato si', mi' Signore, per frate Vento
e per aere e nubilo e sereno et onne tempo,
per lo quale a le Tue creature dài sustentamento.

Laudato si', mi' Signore, per sor' Acqua,
la quale è multo utile et humile e preziosa e casta.

Laudato si', mi' Signore, per frate Focu,
per lo quale ennallumini la notte:
et ello è bello e iocundo e robustoso e forte.

Laudato si', mi' Signore, per sora nostra matre Terra,
la quale ne sustenta e governa,
e produce diversi frutti con coloriti fiori et herba.

Laudato si', mi' Signore, per quelli ke perdonano per lo Tuo amore
e sostengo infirmitate e tribulazione.
Beati quelli ke 'l sosterrano in pace,
ka da Te, Altissimo, sirano incoronati.

Laudato si', mi' Signore, per sora nostra Morte corporale,
da la quale nullu homo vivente po' skappare:
guai a quelli ke morrano ne le peccata mortali;
beati quelli ke trovarà ne le Tue santissime voluntati,
ka la morte secunda no 'l farrà male.

Laudate e benedicete mi' Signore e rengraziate
e serviate cum grande humilitate.

Francesco d'Assisi

Photo : アッシジ 聖ダミアノ教会にて © JUN NAKAI

アッシジの聖フランシスコ帰天800年を記念する今年、
「すべてのいのちを守るための月間2026」シンポジウムでは、
広島教区を舞台にエコロジーを実践しているかたがたの声を聴き、
インテグラル・エコロジーとは何か——、
大地をいやすためにわたしたちに何ができるか——、
ともに祈り、考えたいと思います。

「大地をいやす平和の使徒となろう」

ラウダート・シを生きる現場から

2026年10月3日(土) 13:00～16:30

岡山カトリック教会

プログラム

【司会】中井 淳 神父

ロクスひよりやま キャプテン、
ラウダート・シ デスク 指導司祭

13:00 開会

13:05 あいさつ 成井大介 司教 (ラウダート・シ部門 担当司教)

13:15 広島司教区「ラウダート・シ」のあゆみ

平和の使徒推進本部 ラウダート・シ デスク 和田里 眞弓

13:25 パネリスト発表

ホアン・ドック・ロイ神父

中村 清子 さん

清心女子高等学校

ー 田中 望結さん 赤木 奏那さん

14:25 「ハチドリの希望のひとしずく」のふりかえり 中井 淳 神父

14:35 全体会 コーディネーター 中井 淳 神父

14:50 あいさつ 白浜 満 司教 (広島司教区 教区長)

15:00 シンポジウム終了

15:30 聖フランシスコ特別聖年 記念ミサ
主司式 成井大介 司教



16:30 終了

パネリスト紹介

カトリック岡山南教会主任司祭
日越交流赤磐農園 責任者
ホアン・ドック・ロイ 神父
Phêrô Hoàng Đức Lợi

ベトナム人コミュニティとともに農を営み、祈りの場を自ら開拓する。
農と信仰が一つになった現場からお話しいたします。

広島教区信徒
宇部教会所属

中村 清子 さん
Kiyoko Nakamura

「環境への配慮、ガーデニング、障がいのある家族のケア、祈り、奉仕…
すべてのことは互いにつながっています」。
日常のなかで神と響き合う喜びを、分かち合ってください。

学校法人 ノートルダム清心学園

清心女子高等学校 SSH (スーパーサイエンスハイスクール) 指定校

田中 望結さん 赤木 奏那さん
Miyu Tanaka Sona Akagi

竹林でのフィールドワークと地域向けワークショップを通して、
高校生の視点からエコロジーの実践・研究を発表していただきます。

参考資料リスト

◆カトリック中央協議会

- 教皇フランシスコ『回勅 ラウダート・シ——ともに暮らす家を大切に』（2016）
教皇フランシスコ『来日講話集 すべてのいのちを守るため』（2020）
教皇フランシスコ『パンデミック後の選択』（2020）
教皇フランシスコ『使徒的勧告 ラウダーテ・デウム——気候危機について』（2023）
日本カトリック司教団『いのちへのまなざし（増補新版）』（2017）
日本カトリック司教団『見よ、それはきわめてよかった——^{インテグラル}総合的なエコロジーへの招き』（2024）

◆カトリック関係

- 吉川まみ『ライフスタイルの転換に向けて、ともなる歩みを「回勅ラウダート・シ」と環境保護』
（女子パウロ会、2023）
エリック・シャルムタンS.J. / ジェローム・ゲS.J. 著（中井淳S.J. / 大西崇生S.J. 訳）
『エコロジカルな回心のための霊的な旅路「ラウダート・シ」からの呼びかけ』（教友社、2025）
月間『福音宣教』2025年1月号～8/9月号 特別連続座談会
「見よ、それはきわめてよかった 総合的なエコロジーへの招き」を読む
（オリエンス宗教研究所、2025年）
若松英輔『いのちの巡礼者 教皇フランシスコの祈り』（亜紀書房、2020）
石井健吾『フランシスコの祈り』（女子パウロ会、1992）
酒井しょうこ『酒井しょうこのナチュラルスタイル』（阪急コミュニケーションズ、2013）

◆子どもたち（大人も）とラウダート・シを考えるときに使える本

- 景山あき子 / かすや昌宏『かみさまのおつくりになったせかい』（至光社、2017）
H・ハイドウック-フート / 佐久間彪『ちきゅう』（至光社、2002）
はらだたけひで『FRANCESCOフランチェスコ』（富山房インターナショナル、2013）
高田秀重 / クリハラタカシ『プラスチックモンスターをやっつけよう！』（クレヨンハウス、2020）

◆SDGs 関係

- 服部雄一郎 / 服部麻子『サステイナブルに暮らしたい』（アノニマ・スタジオ、2021）
アノニマ・スタジオ編『暮らしのなかのSDGs 今と未来をつなげるものさし』
（アノニマ・スタジオ、2020）
中嶋亮太 / 古賀陽子『エコな毎日 プラスチックを減らすアイデア75』（翔泳社、2022）
佐光紀子『ナチュラルクリーニングの最強レシピ』（扶桑社、2019）

◆雨水利用 参考サイト

- 明日の京都 文化遺産プラットフォーム「天水バケツプロジェクト」
<https://tomorrows-kyoto.jp/category/archive/seminar/#tensui>
特定非営利活動法人 雨水市民の会
<https://www.skywater.jp/>

2026.10.3 中村清子 選

教皇フランシスコ
回勅『ラウダート・シ』



日本カトリック司教団
『見よ、それはきわめてよかった』



日本カトリック司教協議会
ラウダート・シ部門
ウェブサイト



日本カトリック司教協議会

ラウダート・シ部門

Section for Laudato Si', CBCJ



『エコロジカルな回心のための霊的な旅路
——「ラウダート・シ」からの呼びかけ』

ジェローム・ゲ S.J./エリック・シャルムタン S.J. 著
中井淳 S.J./大西崇生 S.J. 訳、柳川朋毅 編集協力・校閲



一般社団法人
日越交流赤磐農園 HP



学校法人ノートルダム清心学園
清心中学校・清心女子高等学校 SSH HP



広島教区 平和の使徒推進本部
ラウダート・シ デスク HP



2026年すべてのいのちを守るための月間

ラウダート・シ部門 担当司教メッセージ

「いのちの水」

毎年9月1日の「被造物を大切に作る世界祈願日」から、アッシジの聖フランシスコの記念日である10月4日までの期間、世界のキリスト者は「被造物の季節（Season of Creation）」を祝っています。日本の教会も、2019年の教皇フランシスコ来日時呼びかけにこたえ、2020年よりこの期間を「すべてのいのちを守るための月間」と定め、意識と自覚を深めながら、具体的な行動へと踏み出すよう歩みを重ねてまいりました。

2026年の「被造物の季節」のテーマは、「いのちの水（Living Water）」です。このテーマは、預言者エゼキエルの幻^{ヴィジョン}に由来します。

すると見よ、水が神殿の敷居の下からわき上がって、東の方へ流れていた。……川が流れて行くところではど こでも、群がるすべての生き物は生き返り、魚も非常に多くなる。この水が流れるところでは、水がきれいになるからである。この川が流れるところでは、すべてのものが生き返る（エゼキエル書47章1節、9節）。

神殿の敷居の下からわずかな水がわき、やがて渡ることをできないほどの大河となり、行く先々で荒れ地を潤し、死んだ水を生きた水に変え、いのちを回復させていく——この幻は、わたしたちがともに生きるこの世界のいのちのつながりが、神の恵みに基づいていることを示しています。神が与えるいのちの水はとどまることなく流れ、わたしたちが傷つけた大地をいやし、失われたかに見えるいのちを新たにします。

わたしたち人間はこのいのちのつながりを分断し、壊し続けています。それによって人間も、大地も悲鳴を上げています。ここでは、水について考えてみましょう。気候変動による記録的な豪雨や渇水、各地で頻発する水害、水質汚染、海水温の上昇や海面上昇、そして世界には今なお安全な飲み水を得られない人々が数億人単位で存在します。日本においても、近年の集中豪雨や台風の激甚化は、水がいのちを支えると同時に、無秩序な開発や環境の軽視のもとでは大きな脅威ともなりうることを、わたしたちに突きつけています。

わたしたちキリスト者にとって、水は洗礼の恵みを思い起こさせるものでもあります。洗礼の水によってわたしたちは新しいいのちに生まれ、キリストの死と復活に結ばれる者となります。エゼキエルの幻^{ヴィジョン}の水が神殿からわき上がり、流れ出て、大河になって広がっていったように、洗礼によって受けたいのちの恵みを、自分の内に留めてしまっはいけません。『ラウダート・シ』が教えるように、この世界のすべてのものはつながっており、生きるために互いを必要としています。この「すべてのいのちを守るための月間」の間、わたしたちは、いのちのつながりを大切に作る小さな取り組みを続け、それが家庭へ、地域社会へ、そして被造物全体へと流れ出ていくよう努めましょう。

【取り組みへの招き】

祈りとミサ：何よりもまず、神の創造のわざを賛美し、いのちのたまものに感謝しましょう。そして、この世界のすべてを神からのたまものとして大切に受け取り、ともに生きていくことができるよう、神の導きを願いましょう。とくに、「被造物を大切に作るためのミサ」を、下記の資料（QRコード）を参考にささげてください。

エコロジカルな回心：自分自身のライフスタイルを振り返りましょう。わたしたちは限りなく尊いものとして神から造られましたが、この事実を自分事として受け止め、感謝しているでしょうか。また、きわめてよいものとして造られた全世界を、造り主のみ心にかなう仕方であらうようゆだねられた者として、ふさわしく生きているでしょうか（参考：司教団文書『見よ、それはきわめてよかった——総合的なエコロジーへの招き』36～45「ライフスタイルの転換を目指して」）。

エコロジカルな教育：AIの時代に成長していく次の世代を生きる子どもたちが、いのちの尊さとそのつながりを大切に生きていることができるよう、学び、体験する機会を作りましょう。

貧しい人と大地の叫び：あなたの身近なところで苦しむ人はだれでしょうか。叫びを上げる自然環境はどこでしょうか。つながってこそ生きることができるよう造られた世界にあって、とくにこの期間、叫びを上げる人々と自然環境を心に留め、つながりのうちに歩みましょう。

2026年8月15日、聖母マリアの被昇天の祭日

日本カトリック司教協議会 ラウダート・シ部門
担当司教 成井大介



「すべてのいのちを大切に作るためのミサ」の手引き～2026年版

「ハチドリの希望のひとしずく」の ふりかえり



- ① 今日のシンポジウムの中で、ご自身の中でどのようなころの動きがあったでしょうか。
どのような言葉、体験の分かち合いがここに留まったでしょうか。
それはなぜでしょうか。

- ② 今日のシンポジウムを通して、どのような痛み、どのような希望がありましたか。
それは、わたしたちの日々の暮らしにどのようにつながっているでしょうか。
どのような「行動」に招かれていると感じますか。

- ③ あなたが運ぶハチドリのひとしずくは、为什么呢。



Name :